東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2025 年　VOL. 3（2025. 8）

第 76 回全国七大学対校陸上競技大会 兼 第 36 回全国七大学対校女子陸上競技大会

（札幌市円山競技場）

・対抗男子総合優勝、対抗女子総合 3 位
・増田併介(3)が男子やり投げで二連覇
・渡邉優典(3)が男子 800m で 1:51.44 の大会新記録で二連覇
・島村惟葵(4)が男子棒高跳で三連覇
・男子 4×100mR にて東北大学が 40.74 で部記録更新
・男子 4×400mR にて東北大学が 3:13.65 の大会新記録で優勝

●第 76 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 36 回全国七大学対校女子陸上競技大会
----------2~15 ページ

● 自己ベスト更新者一覧 ----------15~16 ページ

● 今後の予定 ----------16 ページ

● 編集後記 ----------17 ページ

処夏の候、会員の皆様にはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。
今号では、7/26-27 の二日間にかけて行われた第 76 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 36 回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第 76 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 36 回全国七大学対校女子陸上競技大会

～札幌市円山競技場～（7/26～7/27）

今年の七大戦は、北海道札幌市で 7/26-27 の二日間にかけて行われました。対校種目だけでなく、オープン種目も開催され、多くの現役部員や OB の方々にもご参加いただきました。強い日差しが照りつける厳しい暑さの中、部員一同各々の競技や応援に全力を尽くしました。それでは、ここから男女総合結果及び主将、女子主将の挨拶と対校戦各選手による選手報告を紹介します。

● 男子総合結果

順位	大学	得点
1 位	東北大学	97
2 位	大阪大学	80
3 位	京都大学	70.5
4 位	東京大学	67
5 位	九州大学	42
6 位	名古屋大学	33
7 位	北海道大学	30.5

● 女子総合結果

順位	大学	得点
1 位	大阪大学	35
2 位	京都大学	20
3 位	東北大学	19
4 位	名古屋大学	16
5 位	北海道大学	5
5 位	九州大学	5
7 位	東京大学	0

● 主将・女子主将より

主将挨拶

東北大学陸上競技部　前主将　倉部彰土

１年間主将を務めさせていただきました、短距離パート４年の倉部彰土です。

OBOG の方々には日頃から多大なるご支援をいただき、改めて感謝申し上げます。今回の七大戦では三秀会会長をはじめ、数多くの OBOG の方々が北海道まで応援に駆けつけてくださり、ホームグラウンドのような安心感の中各部員競技することができたと思います。

今回の七大戦では、悲願の**「男子総合優勝」**を成し遂げることができました。昨年２位になってから１年間総合優勝を追い求めてきましたので、ついに達成したという喜びと、無事優勝できたという安心が入り混ざった気持ちです。また男子につきましては、今季の対抗戦は東北 IC・北大戦・七大戦と全勝することができました。三冠出来たことで主将としてこの上ないシーズンを過ごすことができ、チームのために頑張ってくれた部員や、サポートしてくださった方々に本当に感謝しています。

私は、「部員全員で七大戦を創りあげる」ことを目指し、常々部員に呼びかけてきました。これは、対抗得点に絡む正選手だけでなく、オープンに出場する選手やサポートにまわる部員全員で良い流れ、雰囲気を作り出し、勢いづけるという意味です。

実際この言葉を体現するように OP 種目で好記録が連発し、応援も競技する選手が奮い立つような最高なものでした。今回総合優勝という晴れやかな結果を持って帰ることができた裏側では、このような部員の活躍があったことを知っていただければと思います。

この部はまだまだ成長できると信じています。下級生の活躍が目覚しいことが我が部の強みですし、来年以降今まで１度も達成したことのない男子・女子の同時総合優勝ができるでしょう。今季の結果に満足することなく、常勝軍団になれるよう私自身も今後部のために尽力していく所存です。

七大戦で代替わりとなりますが、次期主将の大泉は視野が広く、部のためになると考えたことをすぐに実行に移せる行動力を持った人間です。彼ならこの部をさらに良い方向に導いてくれるでしょう。

今後とも変わらぬご支援・声援をお願い申し上げます。

女子主将挨拶

東北大学陸上競技部　前女子主将　加賀谷美結

今期女子主将を務めさせていただきました、加賀谷美結と申します。私からは、7 月 26 日から 27 日にかけて開催されました全国七大学対校陸上競技大会につきまして、女子パートをメインに結果報告をさせていただきます。

今年度の七大戦では 19 点を獲得し、総合 3 位という結果となりました。シーズンベストを基にした事前の点数予想にて「30 点を獲得し、総合優勝」という目標を掲げていたため、悔いの残る成績となってしまいました。特に 2 位の京都大学との差はわずか 1 点であり、北大戦の際に感じた「1 点の重要さ」を悔しい形で再認識する場となりました。「昨年度の結果を超える」ことができず、主将として、一部員としてやるせない気持ちでいっぱいです。

しかし、今年で最後の七大戦となる 4 年生部員をはじめ、1 人 1 人が今持っている最大の力を出し切れたのではないかと感じています。今大会は優勝種目こそ予想より少なかったものの、予想を上回る活躍を見せ、入賞した部員や、自己ベストを更新した部員を多く輩出することができました。近年では珍しい厳しい部内選考を勝ち抜いて挑んだ選手も多く、1 人 1 人の七大戦への熱意は過去最高のものとなっていたことでしょう。オープン種目で盛り上げてくれた部員、対校選手として戦い抜いた部員、得点管理やサポートに徹した部員、1 人 1 人がチームを底上げしてくれました。本チームは 3 年生以下が主力となっているまだまだ若いチームです。来年以降は新主将である喜多を中心に、今大会で得た強みや弱みをチームの強化に活かし、総合優勝を勝ち取ってほしいと思います。

また、全体におきましては男子総合優勝、男女総合点数第 1 位という結果を残すことができました。昨年作り上げた土台をさらにレベルアップさせた応援や得点管理は、今大会において陸上競技部の新たな強みとなりました。この現状に満足せず、さらなる高みを目指し、総合力の強化に努めてほしいと思います。

最後になりますが、私たちは本大会に至るまで、日頃から活動を支えて下さる部長、監督をはじめとする先生方、OB・OG の皆様方からのご支援・ご声援にたくさん支えられてきました。この場をお借りして、この一年の感謝を申し上げます。東北大学陸上競技部は、今後も 1 人 1 人が目標を持ち、さらなる高みに挑戦し続けます。是非温かい目で見守っていただけると幸いです。

●選手報告

☆男子トラック

男子　100m 予選

1 組 6 着　小南慧馬(3)　11.04(+1.8)
直近はスプリント全体でキレがなく動きがたるんでいたため、動きの大きさを度外視して、サボらずにしっかりピッチを上げて走ることを意識した。結果は PB の記録ではあったが、風を考えれば今季前半のほうがよいパフォーマンスができており、組の中では勝負にならず、記録的にも満足のいく結果には程遠かった。今までの自分の練習の甘さを見つめ直し、もう一度スピードを強化したい。

2 組 3 着　室田竜磨(3)　10.67(+1.3)
着順を狙ってたが、思った以上に周りが速くて自信を失った。

3 組 7 着　島村惟葵(4)　10.97(+0.8)
スタートしてすぐに上半身が起き上がる癖が治らず，加速期でうまくスピードに乗れなかったため後半は無理やり走り抜けた。10 秒台には乗ったが組で 7 着という結果で終わった。

男子　100m 決勝

3 位　室田竜磨(3)　10.62(+0.9)
予選の反省を活かして、スタートはより重心を前にするために前傾を意識し、加速区間にうまく繋げることができた。後半は、自信があったので、焦らず走ることができた。来年も頑張りたい。

男子　200m 予選

1 組 4 着　稲谷将幸(3)　22.82(-0.4)
私の組はスターターのミスにより、セットから号砲までが異様に短く、焦った結果スタートで少し浮いてしまい、思うような加速ができなかったが、後半はピッチが落ちることなく、失速を抑えられて結果的に PB を更新することができた。

2 組 3 着　岸本醍知(2)　22.13(+0.1)
400 決勝でのスタート感覚が抜けきれず上体を起こすのが早くなってしまった。後半はいつも通り伸び 3 着でゴール。ギリギリ決勝に拾われた。

3 組 2 着　室田竜磨(3)　21.97(-0.9)
前日の疲労で脚が重かったので前半は前の様子だけ見て、後半は着順取れるように少しスピードを上げて走った。

男子　200m 決勝

1 位　室田竜磨(3)　21.69(+0.2)
スタートからリラックスして走り、前半 100m はビリで通過したが、後半は割と余力があったので気合いで追い上げて全員捲ることができた。タイムは満足してないが、5 レース目で脚がもげなくてよかった。来年も頑張りたい。

10 位　稲谷将幸(3)　22.91(-2.5)
スターターのミスにより予選 1 組の人は全員決勝進出となり、幸運にも決勝を走ることが出来た。
決勝ではスタートをしっかり決めることができ、低い姿勢で飛び出せたため、スピードに乗ることが出来た。後半の直線は向かい風が吹いていたが、無理に上体から突っ込むようにせず、姿勢を維持して接地時間が短くなるよう心がけた。そのおかげで後半しっかり伸びることができ、向かい風が強い中でも PB に近い記録を残すことが出来た。

11 位　岸本醍知(2)　23.26(-2.5)
予選の反省を踏まえ体を低く保つことを意識しながらスタート。コーナー抜けの辺りで先頭と大分差がついてしまい得点を取る望みが薄かったためマイルリレーのために流した。ごめんなさい。

後半追い上げる室田(3)

男子　400m 予選

1 組 1 着　岸本醍知(2)　48.53

前半からしっかりスピードを出して入る。ホームストレートに入ってから大分余裕があったためラストの 50 程度流してゴール。

2 組 3 着　菅野涼太(4)　48.71

200m までは外レーンを見ながらリラックスして走った。後半はカーブを使いながら切り替え、スピードを維持しながら最後の直線に入る。前 2 人を追いながらその時点での PB でフィニッシュ。タイムで決勝に進んだ。

3 組 4 着　平野蒼士(1)　49.58

初めての七大戦で正選手として出場させていただく機会に恵まれましたが、不甲斐ない結果になってしまいました。個人的には課題が明確に掴めたレースになりました。今後の練習に反映させていきます。

男子　400m決勝

1 位　岸本醍知(2)　48.10

300 メートル辺りまでは他大と並んでいたがラストの直線で伸びを発揮することができた。前日の予選と四継の影響か足に大分疲労が残っていたこともあり部記録更新はできなかった。

5 位　菅野涼太(4)　48.63

前半は予選と同様の走りになった。リラックスしながら、離され過ぎないように他の選手を見て走った。後半はこれまでで 1 番体が動き、最後の直線で 2 人を抜き 5 着でフィニッシュ。PB が出て嬉しい反面、切り替えがもっと早ければ順位も上げられたので悔しさも感じる。

男子　800m予選

1 組 3 着　縣昌幸(2)　1:54.80

組 4 番手の持ちタイムで挑んだ。1 組目なのでスローになる気がしたため最初から前にでてハイペースのレースを作ろうとした。ラスト 100 で 3 人に抜かされたがうち 1 人をさし直して 3 着。

2 組 3 着　錦戸昴雅(3)　1:54.60

ハイペースになると予想されたためタイムで決勝に行くことを目標に臨んだ。レースは予想通り進み 3 着に入り、プラスの 1 着で決勝に進出した。目標の決勝進出を果たすことができたとともに自己ベストも出せ、良いレースとなった。

3 組 1 着　渡邉優典(3)　1:54.41

1 周目を 60 くらいで通過するスローペースでレースは進んだが、ラスト 1 周の鐘がなってロングスパートを展開。後続との差を広げていって、ラストやや余裕を持ってゴール。

男子　800m決勝

1 位　渡邉優典(3)　1:51.44

東大の吉澤(1)を先頭に 1 周目を 56 で通過。
私はラスト 1 周の鐘がなってから少しずつペースを上げていく。バックストレートで九州大の丹治(4)がスパートをして私を抜かしていく。しかし、私も彼に必死で食らいついていき、ラストのホームストレートで前日の 1500m の悔しさを晴らすような意地のラストスパートを魅せ、丹治を差し返して一着でフィニッシュ。
昨年までの大会記録を 1 秒以上も更新する好記録での優勝だった。

6 位　錦戸昴雅(3)　1:55.19

得点を目標に臨んだ。常に 6 番手をマークしながら序盤は入ったが最後尾になってしまったため意を決してホームストレートで 4 番手まで浮上。そこから我慢のレースをし、6 着。1 点を獲

得することができた。下馬評を覆し、当初の目標以上の走りができた。

8 位　縣昌幸(2)　1:55.91

点を取りに行くレースにしようと思い、前半は攻めずに集団のやや後ろの方に付けていた。400 通過後ペースが上がっていくのを感じながら、自分もあげようとするが噛み合わず惰性的な走りになった。

男子　1500m決勝

2 位　渡邉優典(3)　3:55.02

1 周目と 2 周目をどちらも 66 で通過するスローペースでレースが運ばれたが、3 周目で 56 までペースを上げ、勝負を仕掛けにいった。ラスト 1 周の鐘がなってロングスパートを展開。しかし、ラスト 20m で東大の秋吉(4)に躱され、2 着でフィニッシュ。

15 位　日引英舜(3)　4:07.42

スタートからややスローペースの混戦で非常に走りづらかった。700m 付近で先頭に出るも、800m 過ぎから他の選手がさらにペースアップ。スパート合戦に対応することが難しく 15 位でゴール。

21 位　北嶋僚大(3)　4:16.46

前半は集団の前の方でレースを進めたが、900m 過ぎから失速。その後もペースアップできずに最下位でフィニッシュ。

男子　5000m決勝

7 位　千葉航太(4)　15:10.46

スタートしてスローペースになり我慢できず 1600m 以降から 2 位集団を引っ張った。ラスト 600m まで引き続け、そこからスパート勝負になったが足が着いてこなくなり、思うようにスパートかけれずに 7 位でゴールした。最低限入賞を目標としていたので不甲斐ないレースをしてしまった。予選会に向け再度練習を積みたい。

9 位　出田義貴(2)　15:30.44

スタートしてすぐに一人が飛び出し二位集団が形成された。スローペースで 1000m過ぎまで進み、そこから一気にペースが上がった。対応はできたものの、3000m過ぎできつくなってしまい離れる形になってしまった。あと一歩届かないレースだったためとても悔しい結果となってしまった。来年以降は入賞や表彰台に立てるようにする。

12 位　熊谷慧(4)　15:39.85

リストが出た時点でランキング最下位(15:47)だった為、集団のペース変化に着き続け順位を取るのは現実的でないと判断した。その上で、暑さで後半失速する選手を拾い順位を 1 つでもあげる方針とした。全ての大会を通して対校選手として走るのはこれが初となったが、これまでの経験を踏まえ調整から当日のレースに至るまで、できることは全てやった。順位は事前のランキングからするとまずまずかもしれない。一方で 3:09-05-06-13-06 というラップを振り返り、3000m-4000m が他大の選手着くだけになり、3:13 もかかってしまった点は力不足を痛感した。今後は駅伝予選会を見据えまだまだ走力のレベルアップに取り組んでいく。今回、大学を背負う対校選手としての経験をさせて頂けたことに感謝し、9 月末の予選会 10000m に向けて練習を積んでいきたい。たくさんのサポートと応援、ありがとうございました！

男子　110mH 予選

1 組 2 着　鍵山弘樹(2)　14.94(0.0)

結果が予測できない予選だった。とりあえず通過できてホッとした。そして、初の公認 14 秒台を出すことができた。ここ最近の考えと取り組みが結果に結びついてホッとしたのと同時に、14 秒台を出せたこと、それをみんなが喜んでくれたことが嬉しかった。

2 組 1 着　長井颯馬(2)　14.82(-0.6)

スタートからゴールまで余裕を持ってレースできた。タイムを狙っていたが 1 台目で浮いてしまい、その後もふわふわした走りしかできず納得いくものではなかった。

3 組 4 着　金岡有途(4)　15.75(-0.9)
持ちタイム的には予選通過はかなり厳しかった。しかし、自己ベストをかなり更新し、悪くない走りではあった。

男子　110mH 決勝

2 位　長井颯馬(2)　14.62(-0.5)
今シーズンで 1 番いいレースができたと思う。ただ、1 台目は予選同様若干浮いてしまっていて予選のミスを修正できなかった。タイムも順調に伸ばせているので今シーズンのうちに 14.5 を切りたい。

5 位　鍵山弘樹(2)　15.02(-0.5)
キレキレの出だしでいいアプローチができた。そのままいいレースを展開できたが、横の阪大の人を意識しすぎて、フォームが崩れてしまいラスト 2 台で失速、焦った結果に上半身だけ突っ込んで 10 台目の後に転倒してしまった。それでもギリギリゴールラインを超えて 5 位にとどまり、資格記録を超えるタイムで走れた。悔やまれるが最低限の仕事はできたと思う。

男子　400mH 予選

1 組 3 着　水澤大地(3)　55.17
課題であった逆足がうまくできた。後半まで巻き返せず 3 着でゴール。

2 組 4 着　阿部竜胆(4)　56.11
怪我で何も出来なかった前半シーズンをこの七大戦での活躍をもって締めくくろうとしたが、上手くいかなかった。4 年間の七大戦で 1 番遅いタイムで走ってしまい情けない。期待してくれた人達にも申し訳ない。でもまだ走り続けます。

3 組 3 着　鍵山弘樹(2)　56.69
北大戦のリベンジ。圧倒的に経験値不足であるが魂の突っ込みをしようと決意してスタートした。14 歩ハードルで前半を組トップで通過したが、足が合わずに 5 台目で失速。さらにここ最近 200m 以上の距離を走っていなかったので後半は散々だった。また来年の七大でリベンジしたい。

男子　400mH 決勝

6 位　水澤大地(3)　54.95
前半から飛ばしてった。10 台目を飛んだ時点で 6 番手、しかし最後の最後に他の選手につめられる。気合いで走りきってなんとか 6 位。観るものを楽しませるレースを展開した。

最後の粘りを見せた水澤(3)

男子　3000mSC 決勝

4 位　杉山大輔(4)　9:21.73
東大の選手のタイムが抜けており、2 位以降の選手がほぼ同じくらいの資格記録を持っていたため、2 位狙いで臨んだ。スタートから 2 位集団を引っ張る形になった。2000m で後方の選手がスピードを上げた。既にきつく、スパートをかけたものの最後まで差を縮めることができずに 4 位でゴールした。

13 位　城田健悟(2)　9:59.67
ほぼすべての障害で全く足が合わず、ほぼ完全にストップアンドゴーの状態だった。障害を飛ぶのに体力を使いすぎてしまい、2000m を過ぎた頃にはすでにほぼ満身創痍の状態であった。障害に足を合わせるのがやっとという感じで、まったくスピードに乗れず、ただただ苦しかった。最後の 1000m ではゴールだけは何とかしようと考えていたくらい力が出なかった。ただ、

障害が下手すぎるにしてもやはり走力不足は実感した。

17 位　鈴木拓真(3)　10:10.92

まずは応援誠にありがとうございました。最初から最後までつらいレースではありましたが皆さんの応援のおかげで最後まで持てる限りの力で走り切ることができました。

対抗戦であり、かつ自身の PB でも得点圏外だったことから事前の計画としてはとにかく体が動かなくなるまで入賞ラインの集団についていくことを想定していました。

しかし実際のレースにおいては 1km もたたずして肺や脚単体ではなく全身が全く動かず、集から離れてしまいました。また、中間疾走やスパートにおいても走りにメリハリをつけることができず内容としては悔しい結果となりました。

今回の大会をもって公式戦からは一線を退き就職活動に力を入れることとなりますが長距離種目を通じて身に着けた忍耐力をもって全力を取り組んでいきたいと思います。

来年には無事に就職活動を終え大会復帰を果たせるよう走り続けますので復帰した際には応援よろしくお願いします。この度は本当にありがとうございました！

男子　5000mW 決勝

9 位　田中伊織(4)　22:05.91

阪大・京大勢がタイムで飛び抜けていたが、ワンチャンスに賭け、6 位を狙い後方からレースを進めた。序盤から良いリズムで入り、終盤にかけて前方の選手を拾っていった。最後は若干ペースを落としたものの、自己ベストを 55 秒更新する 22′ 05 でフィニッシュ。上位 5 名が大会記録を更新する高速レースとなり、入賞には及ばなかったものの、例年であれば入賞相当のタイムであり、自身の成長を実感できるレースとなった。

10 位　山中遼平(3)　22:28.11

今回の七大戦の目標としては東北大の三人のうち一人でも入賞するというものを掲げて臨みました。大会前の練習状況としては二週間前に体調を少し崩してしまい練習を最後積みきれなかったという不安はありましたが、その後から徐々に状態が上がっていきレースプランとしては 21 分 30 秒ぐらいが 6 位のゴールタイムになると予想し、4:30 ギリぐらいでレースを進め後半落ちてきた選手を拾いつつペースをあげていきたいなと考えていました。当日のレースとしては、当初のレースプランとして 3000 メートル過ぎまで 4:25 くらいのペースで伊織さんとレースを進めれました。しかし 3000 過ぎくらいで余裕が持てず最終的には順位を上げれずゴールするという形になりました。大会自体のレベルも高く正直、今の自身のレベルでは全然太刀打ちできないことを実感させられたので、ここから一年鍛え直して来年のレースでは入賞できるよう頑張りたいです。

12 位　田中澪(1)　23:35.96

序盤は先頭のハイペースから落ちてきた人を拾っていくつもりで第 2 集団についたが、1 ㌔を過ぎたあたりから遅れてしまい、そこからペースを維持したもののなかなか順位を上げることができず、ラスト 1 キロからはペースも落ちてしまい、12 位でゴールした。UB ではあるものの悔しい結果となった。来年は得点争いに絡めるように頑張りたい。

男子　4×100mR 決勝

2 位　臼田(3)-菅野(4)-室田(3)-岸本(2)

記録：40.74

個人で PB を出し調子のいい 1 走の臼田が得意のスタートを活かして 3 着で渡すと、2 走の菅野は他大のエース相手に粘り、順位をキープ。3 走の室田が 100m 決勝の勢いのまま順位を一つ上げ、4 走の岸本は綺麗にバトンパスを決め、順位を守って 2 着でゴールした。

部記録の更新と表彰台を達成でき、昨年からの飛躍を感じた。

男子　4×400mR 決勝

1 位　渡邉(3)-菅野(4)-平野(1)-岸本(2)
記録：3:13.65
複数レースの選手もいた中で想定通りのオーダーを組むことができた。
1 走の渡邉は 800m,1500m の疲れも見せずに実力を発揮し、3 着でバトンパス。2 走の菅野は 1 位の京都大と差を詰めて 2 着でバトンを渡す。3 走の平野の時点でトップに立ち、4 走の岸本が勝ちに徹する走りをし、一度先頭を譲るもホームストレートでスパートをかけ大会新、1 着でフィニッシュした。

大会新記録を樹立したマイルメンバー

☆男子フィールド

男子　走高跳決勝

13 位　大泉宥太(3)　170cm
ここしばらく調子を崩していたが、会場の雰囲気もあり、わずかではあるが自分の跳躍を取り戻すことができた。来年こそ得点を目指す。
14 位　柴田駿吾(3)　160cm
ケガを完治させることができず、練習も積めなかったことや跳躍本数を重ねることができずに、不本意の結果に終わってしまった。ただただ悔しい。来年こそは、理想の練習を積んで試合に臨み、理想の結果を持ち帰ってきたい。
NM　鍵山弘樹(2)
5 種目目の疲労のなか戦った。他の競技と休憩の兼ね合いからほぼ PB の高さ 185 から始めた。跳べる気はしていたが、180 程度の高さしか出なかった。2,3 本目と徐々に助走スピードを上げていったが、3 回目に悪い踏切をして足首を捻挫してしまった。

男子　棒高跳決勝

1 位　島村惟葵（4）　4m50
4m50 を最初の高さとし, いつもより柔らかいポールで一回で記録を残した。この時点で優勝は決まっていなかったが 4m60 をパスし，京大の選手がこれを失敗したため 4m80 に高さをあげた。大会記録を意識しポールも硬いものに変えたが，最近の不調は抜けておらずポールを使えずに 3 回失敗。4m50 という記録で優勝，三連覇となった。
3 位　倉部彰土(4)　4m00
実力を鑑みて持って帰ることができる最高の順位だったので、自己ベストを更新して総合優勝に貢献することができて嬉しい。3m80 の試技で 2 回失敗して追い込まれたが、うまく緊張をコントロールすることができたのが昨年から成長したところだと思う。伸び代を感じる跳躍ができたので、今後の混成競技に繋げていきたい。
5 位　吉岡樹吏哉(1)　3m80
初めての七大戦ということで、かなり緊張した。前半緊張しすぎて体力を使いすぎてしまった。

男子　走幅跳決勝

5 位　小南慧馬(3)　6m90(-1.0)
全試技を通して足合わせに苦労した。結局去年と同じことで躓いており、成長がないと言わざるを得ない。昨年度の 6 回目での逆転の経験が染み付いており、勢いだけで押し切ろうとして冷静さを欠き、最低限意識すべきことさえ意識できずバラバラな跳躍になってしまった。合わせにいっても得点ラインの記録を残せるようになったのは成長した点ではあるが、到底満足のいくものではなかった。
助走構成、踏切、メンタル作り等今まで目を瞑

ってきた部分を反省し、細部まで拘って今一度作り直したい。

6 位　早藤海音(2)　6m88(-0.3)

今回は前半 3 回の足合わせに難攻し思うような跳躍ができなかった。最初の 2 回でしっかり記録を出せるように練習を積みたい。

11 位　大場康平(4)　6m37(+0.1)

万全の準備をしたつもりだったが、当日の動きが悪かった。雨の中アップしたのもあるかもしれないが、刺激が十分に入っていないような感じで、身体がひたすら重かった。記録や順位は望ましくないが、3 本の中で最大限の修正はできたと思う。そこはいい経験になった。

男子　三段跳決勝

5 位　江尻羚真(2)　14m20(+0.3)

大学初となる 14m を超えることができ、ひと安心だった。しかしまだ PB には及ばず、上位入賞も遠かったので、来年こそ点数をたくさんとって東北大に貢献したい。

8 位　奈良隆ノ介(2)　13m93(+0.3)

コンディションはお世辞にもいいとは言えない状況だったが、日頃のピーキングが功を奏し、調子は非常に良かった。しかしながら、七大戦というお祭り気分に心浮かれたことが裏目に出てしまい、1 本目から最終跳躍にかけて調子を上げることができず、ランキングから順位を落としてしまった。試合内での修正ができなかったことが敗因なので、次回以降は冷静さを持って試合に臨みたい。

13 位　根本陽大(3)　13m23(+0.7)

練習跳躍では思うような跳び方が出来ずかなり焦りを感じたが、試技を重ねていくうちに感覚を取り戻し、2,3 本目で PB を出すことができた。特に 3 本目の感覚がかなり良かったので、この感覚を忘れないように、これからのシーズンを過ごしていきたい。

男子　砲丸投決勝

4 位　鍵山弘樹(2)　10m77

昨年は 11m を投げて 2 位だったが今年は 4 位に終わってしまった。よくも悪くも前評判通りだった。最後まで押し切れないことが多く、試合本番もこれに悩まされた。パワーに頼って投げている部分が大きいのでもっと確かな技術を来年までに体得したい。

5 位　谷地穣太郎(2)　10m73

初めての七大戦、非常に楽しかったです。天気予報は雨だったのでピットが滑るかもしれないという懸念があったのですが、予報に反して晴れてくれてラッキーでした。大会前の練習では 10m すら投げることができず、非常に不安でした。自分はメンタルが弱いので、一投目で 10m を投げてとりあえず安心したい、気持ちを落ち着かせたいと思っていましたが、目標通り 10m を投げることができ、良かったです。後輩の典弘君からもアドバイスをもらいながら、今までやってきたことを信じてとにかく気合いで投げました。大学砲丸初戦としては上出来かなと思います。次は 11m を目指し、重心の位置、左手の使い方の改善に努め、頑張りたいです。

7 位　宮﨑ローレンス(4)　10m40

ひどい。まず円盤投げで燃え尽きてしまったのはいいとして、そこからリカバリーする能力が低すぎて砲丸のパフォーマンスは良くなかった。この失態を忘れずに砲丸もたまには投げようと思った。

男子　円盤投決勝

1 位　宮﨑ローレンス(4)　38m35

反省はない。練習投擲での修正項目をもとに調整し、心地よい力みで阪大に競り勝つことができた。東北 IC 優勝に向けて一層円盤投に力を入れていきたい。

3 位　鍵山弘樹(2)　36m19

フォームが安定せず全力で投げれない、握りが定まらずよく円盤が右に流れる、という不安要

素があったが一投目でPB更新の34m超えを投げれて一安心できた。途中で悪癖がでたり、ハードル予選が近づいてくる落ち着かなさはあったが、6投目にさらに伸ばすことができた。

7位　金岡有途(4)　30m64

持ち記録では予選通過出来るかどうかのところではあったが、ベストを70cmほど更新し、目標であった30m超えも達成できた。しかし、得点にはつながらなかったので、そこは悔しい結果となった。

男子　ハンマー投決勝

3位　宮﨑ローレンス(4)　34m26

1投目からベストを出した。競る展開ではあったが、なんとか自分のベストが生き残ってくれて3位。

一方で技術的な問題点が多いので、修正を試みていきたい。

5位　金岡有途(4)　31m92

3位相当の持ち記録であったため、表彰台を狙っていたが、ターンが安定せず、満足のいく結果とはならなかった。しかし点を取るということは達成できたので、そこは良かった。

7位　谷地穣太郎(2)　27m07

今大会の目標は一回転で30mを超えることでした。ただ練習で出した記録と比べれば程遠く、資格記録でもTOP8に残るのは厳しいと思っていましたが、まさか残れるとは思っていませんでした。東北インカレで出した記録を変えることはできましたが、手応えとしてはあまり良くありませんでした。特に練習ではできていた「腕を伸ばした回転」「重心の安定」が上手くできなかったと思います。また、右足のコンパクトな回転、ハンマーを追い越す動きに関して、まだまだ足りていない部分が多いので、体幹トレーニングなどを通して技術向上に努めたいと思います。

男子　やり投決勝

1位　増田併介(3)　62m25

逆上がりを抑えられたので良かった。

6位　石井誠大郎(2)　53m42

OPの方が飛んでしまったのは悔しい。来年こそ優勝。

13位　清水颯太(1)　41m32

緊張もあり、落ち着いた競技ができなかった。

連覇した増田(3)の投擲

☆女子トラック

女子　100m予選

1組1着　白鳥名花(2)　12.46(+0.9)

スタートの感触を確かめて、あとは着順を狙って余裕を持って一着でゴールすることができた。決勝に向けていくつかの改善点が見つかるレースだった。

2組5着　古閑詩季(2)　13.39(-0.4)

普段通りのスタートが出来ず、序盤から遅れ、そのままゴールした。対校戦の盛り上がり、周りの選手の雰囲気に呑まれ自分の動きが全く出来なかった。あと0.03秒で決勝に残れたが、それを逃したのは経験の少なさや、勝負強さがなかったことが原因だと思う。

専門は走幅跳だが、スプリント力が記録を伸ばすポイントになるので今後も継続して大会に出て力をつけていきたい。

女子　100m 決勝

2 位　白鳥名花(2)　12.08(+1.5)

接地がかみ合わず、後半伸びやかに走ることができなかった。一方で練習から不調が続いていた中で最低限修正した走りをすることができたと思う。ハイレベルな決勝となり、とても刺激を受けた。

久しぶりの 200m でスピード不足を感じましたが、目標としていた 26 秒を切ることができたので良かったです。

女子　400m 予選

1 組 2 着　加賀谷美結(4)　1:00.87

スタートから 200m までをかけて徐々に加速。300m 地点で横並びになったところで得意の後半の伸びを生かし、2 着でゴール。PB 更新。

2 組 1 着　臼井千晴(2)　59.40

前半しっかり出して走ることができた。

女子　400m 決勝

2 位　臼井千晴(2)　58.49

前半の 200 は想定通りに走ることができたが、ラストで粘りきれなかった。

4 位　加賀谷美結(4)　1:00.51

スタートに出遅れ、前の選手との差を縮められずに 200m 地点を通過。後半は粘りのある走りで 300m 地点で 5 位に並ぶと、ラスト 100m で加速を強め、前の選手を捉えて 4 位でゴール。PB 更新。

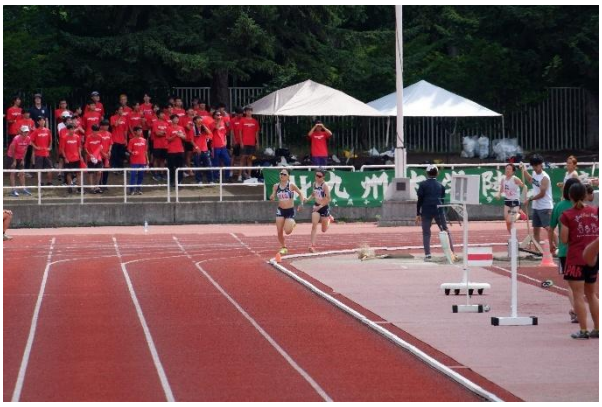
女子　800m 決勝

1 位　喜多和奏(3)　2:16.13

周りに少し出遅れる形となるも、5-6 位ほどの位置につく。400～500m にかけて徐々に前を抜き去り、一位に飛び出る。そのまま加速し続け、バックストレートから佐伯との一騎打ちが始まる。ラスト 80m ほどで佐伯に一度横に並ばれるも、最後なんとか勝ち切って一着でゴール。東北大でワンツーフィニッシュを決めることができた。

2 位　佐伯紅南(1)　2:16.45

1 周目は攻めすぎずに集団の中にいた。2 周目で徐々に先頭争いに加わり、ホームストレートでは東北大対決となった。あと少しの所で優勝を逃したが、七大戦の目標であった東北大ワンツーフィニッシュと 2:18 切りを達成出来て良かった。



女子 800m の喜多(3)と佐伯(1)

女子　3000m 決勝

7 位　江口真央(4)　10:42.78

スローペースの大集団の後方についてレースが進んだ。ラスト 1000m で先頭のペースアップについて行けず少しだけ順位を上げてゴールした。

8 位　塩見薫(3)　10:44.43

序盤はかなりスローな展開でレースが進んだ。2000m 通過手前でレースが動き、前の動きに続きたかったが、なかなかペースが上がらず 8 位でゴールした。

女子　100mH 決勝

6 位　上田綾乃(1)　17.69(-1.2)

北大戦と比べてアプローチは改善されたが、走力が無くてタイムが出なかった。しかし、14 秒台の選手の隣で走れたことはいい経験になった。

7 位　建部亜美(2)　18.18(-1.2)

スタートから加速ができず出遅れた。無理に 3 歩で行こうとしたが、3 台目以降逆足をうまく使ったほうがスムーズに行けた。10 台目で当たって減速してしまったのが悔しい。

女子　4×100mR 決勝

3 位　古閑(2)-臼井(2)-大槻(2)-白鳥(2)
記録：49.45
１走の古閑が勢いよくとびだし、バトンパス時点で前の東大に追いつく快走。バトンでロスがあったものの、2 走の臼井がエース区間で好走を見せ、この時点で 4 位に浮上する。3 走大槻は 6 本の跳躍の疲れを見せない走りで 3 位の名古屋大との差を詰め、4 走白鳥で逆転に成功し 3 位入賞となった。順位の目標は達成できたものの、48 秒台は達成できなかった。バトンワークに加え、個々の走力を高めてまた挑戦したいと思う。

☆女子フィールド

女子　走高跳決勝

5 位　伊藤真奈美(2)　151cm
前日に踏み切り足を負傷し、不安の多い競技となりましたが、目標としていた 151 をクリアし PB を更新することができました。しかし、順位としては点を取ることができず、悔しい結果となりました。来年は順位にもこだわり部に貢献できるよう頑張りたいです。

11 位　末岡由衣(3)　125 ㎝
ほとんど練習できない中での試合となったが、昨年のような NM は避けれてよかった。自身の成長は感じられたものの、悔しいものは悔しいので自分の身体とうまく付き合いながら練習をつんでいきたい。

伊藤(2)の跳躍

女子　走幅跳決勝

6 位　大槻真優(2)　5m25(+2.4)
いつもの試合ほどのバネを感じられず、記録更新も得点も達成することができなかった。5m 後半を跳ばなければ上位に入れないことは予想しており、自分もそのくらい跳ぶつもりでいたため悔しく思う。
また、短距離の強い選手が簡単に幅跳専門の選手よりも好記録を出す様子を見て、バネや跳躍技術以前に陸上選手としての今の自分の力不足を痛感した。このような経験ができたことは何よりも今後の励みになったと思う。
これから走力を磨いて力強い跳躍ができる選手を目指したい。

9 位　古閑詩季(2)　4m93(+1.0)
①4m70(-0.2), ②4m68(+0.1)
1 本目 2 本目は共に踏切準備での減速が著しく、踏切自体は悪くなかったものの、前に跳ぶことが出来ず、距離を出せなかった。
③4m93(+1.0)
スピード保ったまま踏切に突っ込むことを何度もイメージしてからピットに立った。助走の前半は頑張りすぎず、地面をしっかり捉えて加速し、後半はピッチを落とさず踏切に入ることができた。踏切角度や空中動作もよく、2 ㎝ベストを更新できた。ただ、踏切前のピッチはまだ上げられる余地があると感じた。
昨年よりも得点ライン、TOP 8 ラインが 20 ㎝以上も上がり、3 回の試技で終わってしまったことを悔しく思う。上位の選手は短距離選手で、助走のスピードが明らかに自分よりも速く、差を感じた。今後は助走スピードを上げられるようスプリント力を付けることを重点的に取り組んでいきたい。

女子　砲丸投決勝

3 位　五嶋理子(2)　8m73
砲丸投げの目標は、得点獲得と自己ベスト更新だった。結果は、2 得点獲得することはできたが、

自己ベストの更新ができず満足のいく記録ではなかった。2 投目から 4 投目まで意識する点を絞りきれず、散漫な投擲になったことが残念だった。5 投目以降は下半身から動かすことを意識して立て直すことができた。その結果、6 投目で記録を伸ばせたことは良かった。

4 位　平谷めるも(4)　7m96

点数に貢献ができてよかった。応援ありがとうございました。

女子　やり投決勝

4 位　伊藤真奈美(2)　32m42

SB 更新を最低限の目標としていたため記録としては納得いく競技とはなりませんでした。来年はもっと点を取ってこれるよう、また練習に励みます。

NM　平谷めるも(4)

計測してもらえるよう練習すべきだった。

▲集合写真

◎自己ベスト更新者一覧(7/1~7/31)

男子 100m

室田竜磨(3)　10.62(+0.9)　七大戦(7/26)

臼田蓮希(3)　10.92(+0.6)　七大戦 OP(7/26)

元木盛太(5)　11.03(+1.2)　七大戦 OP(7/26)

小南慧馬(3)　11.04(+1.8)　七大戦(7/26)

川俣拓樹(M2) 11.43(+1.7)　七大戦 OP(7/26)

細田懸(2)　11.65(+1.7)　七大戦 OP(7/26)

女子 100m

白鳥名花(2)　11.97 (-0.2)宮城県選手権（7/5）

▲部記録更新 !!

男子 200m

稲谷将幸(3)　22.82(-0.4)　七大戦(7/27)

男子 400m

岸本醍知(2)	48.06	宮城県選手権(7/5)
菅野涼太(4)	48.63	七大戦(7/27)

女子 400m

加賀谷美結(4)	1:00.51	七大戦(7/27)
越後谷苑葉(2)	1:03.60	七大戦 OP(7/26)
建部亜美(2)	1:04.63	七大戦 OP(7/26)

男子 800m

錦戸昴雅(3)	1:54.60	七大戦(7/27)

女子 800m

喜多和奏(2)	2:16.13	七大戦(7/27)
越後谷苑葉(2)	2:23.64	秋田県選手権(7/6)

男子 1500m

長井春樹(6)	4:03.08	宮城県選手権(7/5)
大崎海斗(2)	4:16.93	七大戦 OP(7/26)
富田綾人(M2)	4:19.34	七大戦 OP(7/26)
松本智志(3)	4:22.81	七大戦 OP(7/26)
大川佑貴(3)	4:25.68	七大戦 OP(7/26)

男子 5000m

熊谷慧(4)	15:39.85	七大戦(7/27)
櫻井航(2)	15:46.22	七大戦 OP (7/26)

男子 10000m

佐藤壮真(3)	33:06.48	福島県選手権(7/11)

男子 110mH

長井颯馬(2)	14.62(-0.5)	七大戦(7/27)
鍵山弘樹(2)	14.94(0.0)	七大戦(7/27)
小出寿啓(6)	15.44(+0.4)	宮城県選手権(7/5)

男子 3000mSC

杉山大輔(4)	9:21.73	七大戦(7/27)

男子 5000mW

田中伊織(4)	22:05.19	七大戦(7/26)
山中遼平(3)	22:28.11	七大戦(7/26)

男子 4×100mR

臼田-菅野-室田-岸本	40.74	七大戦(7/26)

▲部記録更新!!

男子三段跳

奈良隆ノ介(2)	13m93	七大戦(7/26)
根本陽大(3)	13m23	七大戦(7/26)

女子走幅跳

古閑詩季(2)	4m93	七大戦(7/27)

女子走高跳

伊藤真奈美(2)	1m51	七大戦(7/27)

男子棒高跳

倉部彰土(4)	4m10	七大戦(7/26)

男子やり投げ

川内蒼馬(M1)	58m83	宮城県選手権(7/5)
石井誠大郎(2)	55m46	七大戦 OP(7/26)

◎今後の予定

- 9/5-7　第 47 回北日本学生競技対抗選手権大会(北海道・札幌市円山陸上競技場)
- 9/20-21　第 76 回東北地区大学体育大会陸上競技(宮城・仙台市陸上競技場)
- 9/27　秩父宮賜盃第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)
- 9/27　第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会(宮城・仙台大学陸上競技場)
- 9/27　第 18 回東北学生女子駅伝対校選手権大会(宮城・仙台大学陸上競技場)
- 9/26-28　第 38 回国公立 27 大学対校陸上競技大会(茨城・笠松運動公園陸上競技場)

- 10/12-13　第 54 回東北学生陸上競技個人選手権大会(仙台大学陸上競技場)
- 10/13　第 37 回出雲全日本大学選抜駅伝競走(島根県出雲市)
- 10/26　第 43 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)

- 11/2　秩父宮賜盃第 57 回全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知県・名古屋市-三重県・伊勢市)

◎編集後記

今号から OBOG 通信担当になりました、堀航太朗と申します。不慣れな部分もあると思いますが、OB・OG の皆様に東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思います。一年間どうぞよろしくお願い致します。

今回の七大戦は、男子が悲願の総合優勝、女子が 1 点差で総合 3 位という悔しさの残る結果となりました。今年も昨年同様に全体応援にも力を入れ、良い雰囲気で七大戦を終えることができました。今年度は東北インカレ・北大戦・七大戦と良い流れが続いています。この良い流れのまま今後は、主将・大泉宥太、女子主将・喜多和奏の新体制のもと、全日予選会や国公立 27 大戦などの各種競技会に向けて練習に励んでいきます。新体制で戦っていく東北大学の選手たちの活躍にご期待ください。

文責　OBOG 通信担当 堀航太朗　　編集補助　宮下尚丈、須藤桃由

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp